

## 「富山県警察の機能強化を考える懇話会（第2回）」開催結果

### 1 開催日時

令和2年10月27日（火）午後3時から午後4時までの間

### 2 開催場所

砺波市春日町1番21号

砺波警察署

### 3 出席者

#### (1) 懇話会委員（9名）

高木繁雄委員、尾畑納子委員、中村和之委員、野口教子委員、島谷武志委員

瀨川信子委員、小原幸夫委員、夏野元志委員、金森勝雄委員

#### (2) 県警察

警察本部長、警務部首席参事官 外

### 4 警察署視察

庁舎や駐車スペースの老朽・狭隘化状況を視察

### 5 議題等

第1回懇話会の課題等を確認し、県警察から「県内警察署の現状と課題」について「県内警察署の概要」、「業務負担の不均衡状況」、「警察署の機能」、「人身安全関連事案への対応状況」、「夜間・休日の当直体制」等を説明した。

### 6 意見

- ・ 組織基盤の強化については、やはり施設面があると思うが、砺波警察署はかなり老朽化しており、駐車スペースも狭いと感じた。
- ・ 砺波警察署の警察官1人当たりの負担が南砺警察署、小矢部警察署と比べて大きいことについては、この砺波エリアの安全安心を考えた時に考慮しなければならない。しかし、人を増やすにもスペース的な課題（警察署の大きさ）があり、また老朽化の観点からも他との統合も考えていく必要があると思った。
- ・ 時代の要請からすると、バリアフリーは非常に重要となっているが、警察署では未対応の状況が見受けられる。
- ・ 砺波警察署を視察したが、高岡警察署も各地域の警察署と比べ老朽化が進んでおり、特に、会合が警察署の一番上のホールで行われた場合、エレベーターがなく、高齢参加者から苦情があると聞いている。予算の関係もあるが、全体的に見ても古い警察署が多いと思う。
- ・ 警察の方が一生懸命に働いている姿を見て、有難いと思ったが、劣悪な職場環境の中では気の毒であり、もう少し綺麗な職場で働くことができれば、モチベーションも上がるのではないかと思う。若い世代は、環境が整ったところで過ごしているので、こういう古い施設に来ると驚くだろうという印象を持った。

- ・ 南砺、小矢部、砺波警察署の警察官 1 人当たりの負担人口は同じくらいだが、エリアが非常に広い南砺警察署とエリアが狭いところで事案の多い砺波警察署については、何か変えていかなければいけないと思う。建物の問題と中の機能の問題のどちらを優先するか、そうした中で、他との関係性を見いだしていくことが必要だと思う。
- ・ 施設の老朽化と手狭さについては、今後何かしらの対策を考えていかなければいけないと思うが、これを機会に長期的な視点で警察署の配置みたいなものを考えてはどうかと思う。また、警察官 1 人あたりの負担度について、人口的には差がなくても、取扱事案件数で 2 倍以上の差があるというのは、警察官の配置を考えていかなければいけないと思うが、入れ物になる建物（警察署の大きさ）の問題もある。
- ・ 一つの事案（人身安全関連事案）にかかる最初の段階での対応に多くの警察官を投入しなければならないことを考えると、ある程度まとまった単位で初動体制を速やかに執れる規模を目指していかなければいけないと思う。
- ・ 行政機能も重要であり、IoT 的な技術の活用や集約化により、基盤を強化し、県民サービスを提供していくことが大切である。
- ・ 前回の警察本部での会議は非常に施設がすばらしいと思ったが、砺波警察署を視察して、格差（警察署の老朽化）を実感した。砺波警察署だけでなく、個々の警察署でいろんな問題を抱えているのであれば、木を見て森を見る必要があるのではないかと感じた。
- ・ 地域警察官 1 人あたりの受け持ち世帯数を見ると、世帯数は同じで、負担が違うということになっているが、管轄する範囲や移動する幅も違うこともあり、単に数字だけではなく、距離感というようなことも加味しながら分析する必要があると思う。
- ・ 富山市内のように警察署が新築され、規模が大きくなると効率的に業務ができることは理解しているが、集約化により地元の警察署が縮小したり、幹部交番になったりした場合、事件現場に行く時間が遅くなるのではないか。幹部交番だけで対応できるのか。警察署を集約していくことになった場合、どう対応するのかお聞きしたい。
- ・ 石川、福井県の警察署数は富山県より少なく集約されているが、地図や拠点場所など具体的にどうなっているのか示してほしい。また、コンパクトとはいえ広さのある富山県において、警察署を集約した場合にアクセスも含めた考え方を示してはどうか。
- ・ 小規模警察署を支援するため、新たに機動力のある部隊の分駐所等を設置する場合、定員を増やさなければならぬと考える。その場合、各署に配置されている警察官を再編しなければならず、体制そのものの議論となる。小規模警察署の体制では、拠点が分かれ、どうしても連絡ミスがあったり、統率がとれるのかといった課題も考えると、かなり抜本的なことを考えていかなければならないと思う。
- ・ 高齢者の運転免許証返納は、行政と連携を図りながら取り組んでいるが、例えば警察で扱っている行政機能のうちの何らかの部分の行政（市町村）の窓口でやるとかも考えられる。ただ、いろいろなハードルがあって、逆に警察から人が来てもらうとなれば、人員不足の問題は解消されないことになるだろう。

- ・ 平成の市町村合併の際、石川県の市町村数は富山県の倍くらいはあったが、現在の石川県内の警察署数は12署で、うち大規模署が8署、小規模署が4署であり、これを調べてみれば、富山県警にも参考になると思う。
- ・ 人口動態が大きく変化してしまっているという点を踏まえつつ、警察機能のうち、どの機能がテクノロジーでなんとかなるのか、また、距離の問題などで身近になければいけない機能は何か、そのあたりを整理した上で、警察署の建替の方向性について、県民に納得してもらえそうな案を提示してもらいたい。